

L o v e l y W i n d

あいのかぜ

VOL. 7

1998・秋号

富山市女性情報交流誌

いろんなこと、私たちで考えてみませんか。



特集：家 族

~ Heart to Heart~
心を育てる家族のぬくもり

スタイル

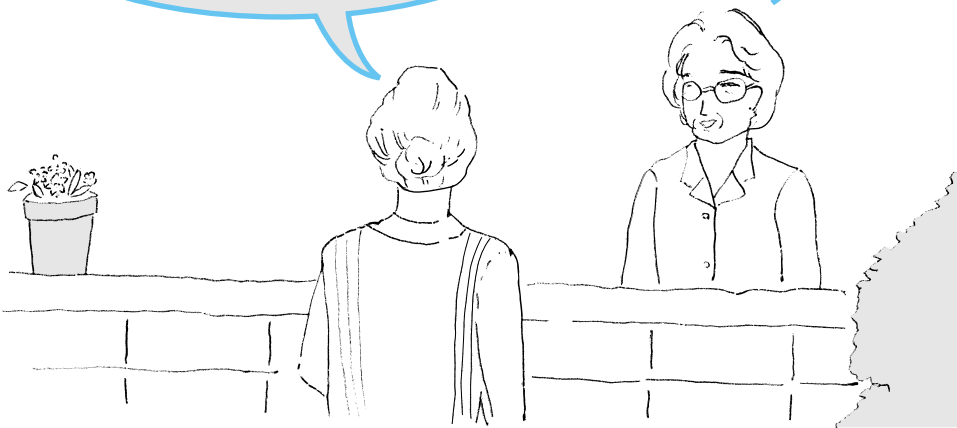
これから



近頃、『家族』が難しい。
 高齢者だけの家族、夫婦だけの家族、そして、シングル……といった家族形態の多様化に伴い、家族関係は、上下関係で成り立っていたものから、同等な立場の友達のようなものへと変化してきている。
 『家族』って、一体何なんだろう？ これから、どう変わっていくんだろう？ そして、どんな『家族』が、皆にとって、いいんだろう？

あらっ、私は
 子供をあてにせお
 楽しく生きていくわ。
 体の続く限り
 やれることは、自分で
 やっていきましょうよ。

最近、腰痛が
 ひどくなってねえ。
 家のことは嫁に
 全部やってもらわないと。



むかし（家父長型、直系大家族の時代）

明治22（1889）年から昭和21（1946）年までの旧憲法の時代は、「家」ということが重視されました。結婚は、当人たちの自由な意思よりも、「家」と「家」が優先し男から男への血のつながりによつて続いていくものでした。嫁入りした女性は、あと継ぎの男の子を生むことが最大の務めになり、子を生まない女性は、離婚されてもやむを得なかつたのです。この時代の家族は戸主を頂点としたピラミッド型の主と従の関係になっていました。

いま（性別役割分担型、核家族の時代）

昭和21（1946）年に公布された新憲法の第14条は、あらゆる身分的差別や性的な差別を禁止しています。家族間の不平等も許されなくなり、社会においても選挙権や進学、結婚などで男女平等が保障されたのです。

でも、法律や制度が変わっても人々の意識は急には変わりません。まだまだ冠婚葬祭には〇〇家が登場します。

家族はそれまでの大家族から、「夫婦と子ども」だけの核家族へと変化し、「夫は仕事、妻は家事育児」という性別役割分担型が、形成されていきました。

家族の

いまむかし

今晚は
おれの得意料理を
作るんだ



たまには発散
しなくちゃね。



夕食は
夫にまかせて
あるから
安心だわ。



これから（男女共同参画型、自立家族の時代）

現在は核家族化が進み、高齢の夫婦や一人暮らしのお年寄りや、シングルといった単独世帯が増えてきています。

これからは、女、男という性の違いを超えて、それぞれが「個」として自立し、男女が共に社会に参画していくことが今まで以上に必要になってきます。

インタビュー



坂東真理子さん（写真左側）
富山県出身
家族は夫・子供3人・実母の6人

埼玉県副知事から、女性で初めての総領事として7月にはオーストラリア・ブリスベンに赴任される坂東真理子さんに、あわただしい日程の中、富山空港で「家族」について伺いました。

Q

仕事を続けてきての家族との関わり

は？

A 女性が仕事を続けていくということはとても困難な

ことです。特に、育児との両立は大変でした。

家族総動員で、母や姉、近所の人達にも、随分と助けられました。今のように育児休業制度も

なく、職場への遠慮もあり、有給休暇もあまりとらないで仕事をしていました。

Q

オーストラリアへの赴任に家族は？

A 単身赴任です。子供は遊びに来るのを楽しみにして、パートナーは、まあ、しょうがない

と思っています。ただ母のことが少し気が掛かっています。

Q

これからの日本の家族について

A これからの家族は、多様な形態になっていく

と思います。シングル・高齢者・血縁係のない

友達家族など。でも、どんな形態であろうと、どんなに離れていようと、家族の間に『愛と信頼』があることが、大切だと思います。



家族

～大切なものだから見つめてみようよ。～

変化し続ける社会の中で、

いま一度、

家族の原点を見つめ直そうと、

思春期カウンセリングについて

勉強中の東美津子さんと

『あいのかぜ』編集委員3人が、

各々の立場から『家族』について

じっくりと話し合いました。



東美津子

自然とのつながりが少なくなった？

東 めまぐるしい時代の流

れに、個々の価値観が多様化したと同時に、昔と今では家族観も大きく変化しました。

野 今は核家族が増え、両親の共働きや子供の塾通い等があって日常生活で

家族と交わる場がグンと少なくなってますね。

布 子供達をとりまく環境も違ってきましたね。

昔は、近所の幼なじみが集まって遊び回ったり、ガキ大将も必ず居て……。

山 親に叱られても祖父母に助けを求めたり、近所のおばちゃんに叱られたり……。そういった人間同士の交流がだんだん失われてきたわよね
布 それに豊かな自然が失われつつあることも大きく関係していると思うの。私達が子供の頃はファミコンもビデオもなかったけれど、家の裏の川で魚を網でつかまえたり、石投げをしたり、秋になると稲が刈り取られた段々田んぼで、上の田んぼからバレーボールを投げて下の者がレシーブしたり、どの段差までなら飛び降りられるか競いあったりしたわ。自然の中で創意工夫しながら、遊びを通して育ってきたのよね。

東 昔は、例えば家族や学校で上手くいかなかったも、地域や自然が助けてくれたところが大きかったと思いますよ。自然の中で、年齢の違う友達との遊びで自分を発散したり、地域の方にお世話になったりすることで、社会性を学んだり

したものです。

価値観を認め合い、尊重することから

野 昔は一家の大黒柱を中心に老若男女が一つ屋根の下に暮らし、大所帯でしたな。

山 我が家のような農家は、作業分担して一家総出で協力し合ってたわ。大人数ゆえの価値観の相違や摩擦は絶えないけれど……。

布 うちも三世代同居なので、やはり世代ごとの価値観の違いはすごく感じます。



布村登実子

でも、価値観の違いから争いになってはいけないと思うの。考え方の違いでお互いを非難し合ったりするのは愚かなことだと最近やつと気がき始めたかな
これからの家庭は個々の価値観の違いを認め合っていくということが大切になってくるんじゃないかな。

山 親は今までの経験からよかれと思って子供に忠告するんだけど、子供は『押しつけられている』させられている』という感情を抱いてしまっているのよね。そしてその感情をぶつけられる自己表現の場が少なくなっていますね。

野 つまり、子供の居場所がない。学校でも家庭でもこうあるべきという理想のもとに動かされている。それが正しいと、子供自身も分かっているけど、命令され強制されると、イライラしている。最近の『キレる』という現象の一因にも

なっているのではないかしら。

山 今は地域や自然との関係が希薄になってきているから、家庭での親子の関係がだめになると、逃げ場がなくなってしまうのね。それぞれの年齢・成長に合わせて子供の意見を尊重していくことが大事ね。その意見が間違っていたとしても、まず聞くことが大事ね。そしてこんな考え方は、どうだろうかという投げかけをするのもいいわね。子供は尊重されていないと、自分で自分の人生を歩いているという自信がなくなっていくって、ちょっとしたことでもつまづいてしまう。そして人のせい、親のせいにしてしまうことしか出来ない子供になってしまうのね。

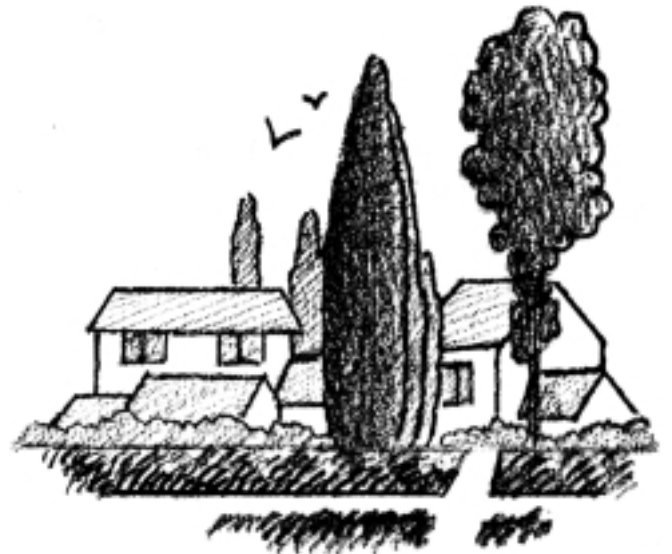
東 自分で考え行動していったら、もし失敗しても、学んでいけるのよね。思春期は、自分自身で格闘しながら、自分の価値観をつくりあげていく時だから、変に世話をやくと、自立できない子になったり、ひきこもってしまう場合もあります。語り合いながら自他共に尊重できる心を育てて欲しいなあ。

団欒がなくなっていったら...



野上聡子

野 食生活にも原因があるのではないかしら。レンジでチンするレトルト食品は、そこそこおいしいけれど、人の手のぬくもりが感じられません。また、塾通い等で「孤食」の子供たちが増えているのも



問題ですよ。

東 家族間の交わりが薄れて、家族はあれど家庭がなくなってきた。言わば団欒というものがなくなりつつあるのかな。

布 我が家では、3人の子が塾通いしてるけど、夕食は必ず一緒に食べています。台所にテレビは置いていません。いつもワイワイ、ガヤガヤ子供達から一日の出来事を聞いたり、素朴な質問をされて思わずハツしたり、また、箸の持ち方が変だとちよつと注意したり、貴重なコミュニケーションの場です。

野 いつまでも「ハンドメイド」を心掛け、家族のぬくもりを大切にしていきたいですよ。

家族のつながり

山 未だ自分の感情を上手くコントロール出来ない

子供たちの心にゆとりを与える場が家庭ではないかしら？

野 私は、ストレスが溜まると両親に話して、一番の安定する空間です。

東 そうよ。情緒回復機能が働いている家庭なら最高ですね。そのために、ささやかでも家庭で恒例行事や記念日を作って、楽しみを増やしていくことが大切なのよ。

布 我が家では、毎年春にお義母さんを中心に、総出で「草もち作り」をしますよ。お義母さんと子供らがよもぎ摘みに出かける事から始め、お義母さんが餅を丸め、私があんこをつけ、子供達がきなこをコロコロ…。夫ができた草もちを親戚中におすそわけ…。各々が役割分担し、子供達は自然を感じ、自分の草もちをつくる…。みんな楽しみにしています。

山 とても素敵な事ね。

山口雄子



親から子へ、子から孫へ…。伝えたい事柄は山ほどあるし、想い出は人生の糧となり心を豊かにしてくれるもの。そしてこれからは、「子育て」とも「個育て」が大切になってくると、私は考えています。様々な流れに自分を見失いがちだけど、家族が成長していく中で、心のやすらぎの場となる家庭を、そして環境を築くよう、頑張っていかなければね。人の心は、人と人のつながりの中で育つものだから…。

家族介護



『家族』を、そして自分の将来を考える時、介護という現実は大きなものです。

自らデイケアハウスを開き理想の介護に頑張っている阪井由佳子さんにいろいろ聞いてみました。

Q 自分でデイケアハウスを開こうと思ったのは？

A 高齢者の方で自分から施設に入りたいと思っている人はいません。施設では、百人いれば百人なりの個性があるのに、決められた入浴時間や活動への参加など画一的に扱われることが多いです。そんなことに疑問を感じ、思い切っってやりたいようにやってみようと思えました。

Q 運営面でたいへんなことは？

A やっぱり、経済的なことですね。今年から民間デイサービス補助金として、年間180万円受けられることになりましたが、まだまだです。忙しい日などスタッフを増やしたくても、普段のお給料の支払いがやっとなので難しいです。常勤が2人だけなので、風邪もひけません。

Q 高齢者だけでなく障害を持った方・乳幼児まで利用できるようにしたのはどうしてですか？

A 地域の中で開所しようと考えた時、高齢者だ

けというのは不自然だと思いました。親が病院に行きたい時に乳幼児を預かったり、また障害を持った方が一人暮らしをして自立しようとするとき、デイケアで手助けしてあげられる。そんなふうにはいろいろな人たちが来ることを出来る場所にしたいな」と思いました。

Q 具体的に一日の流れはどうなっていますか？

A 基本的に来所者の自由です。あるがままの姿でいてもらい、そして生活の中で自分でできることは自分でするようにしてもらっています。

Q これからのことは、どう考えていますか？

A デイケアだけでなく、ショートステイ(1泊)、訪問サービスなど、多機能的な、利用者の望むことに対応していきたいと思っています。

Q 最後に、阪井さんにとって『介護』とは？

A うーん、難しい問題ですね。仕事として介護をやっていますが、それだけでは割りきれないものがありますね。自分の全てとも言えるし、心構えとして、誰もが持つていなくてはならない『支え合う気持ち』でしょうか。

利用者が、家庭にいるように、自由にのびのびふるまえる場所『にぎやか』。利用者の方に「ここに来たら楽しいですか？」と尋ねてみました。「家にも話し相手がおらんけど、ここに来れば皆がいるから」と、特に回りと談笑するでもなく一人でじっと座っているふうなおばあちゃんに答えてくれました。障害を持つている方も「このおかげで自立できた」と話してくれました。何より印象に残ったのは、阪井さんに『介護してあげている』という感じがなかったことでした。

『人はすべて平等』という信念のもと、ただ『出来る人が出来ない人を支える気持ち』。これが、彼女の介護なのではないでしょうか。そして、彼女もまた、来所者の方から元気をもらっているかもしれないと思いました。



阪井由佳子さん(写真右から2番目)29歳

7年間、理学療法士として老人保健施設に勤務した後、自宅を改装し民営デイケアハウス“にぎやか”を開所。常勤2人(本人を含める)、パート4人と食事の用意等のボランティアの方々に運営。

デイケアハウス“にぎやか”

住所 富山市綾田1丁目11 17

☎ (0764) 31 - 0466

営業時間

午前8時～午後6時

(延長可)

定休日

毎週木曜日

利用料金

1 日 2,500円

半 日 1,500円

(4時間以内)

1 時間 500円

昼 食 代 500円

入 浴 代 200円

賛助会員 1口 5,000円

富山市女性交流センター

センターでは、6月6日～7月4日に「男だつて介護講座（全5回）」を開催しました。

少子・高齢化、そして女性の社会参画が進む中、介護は女性だけの問題ではなく、家族皆の問題です。講座を受講された方に感想など聞いてみました。

男だつて介護講座アンケートより

- まだまだ先の話だと思っていたのに、すぐ近づいてきた感じがです。これから相互扶助、共々に体験を話し合う機会を得たい。
- 介護は人と人のかかわりであることが原点といういいお話を聞かせていただきました。

センターではこれからも左記の講座を予定しています。

| 講座名 | 内容 | 開催時期 |
|----------------------------|-------------------------------------------------------|--------|
| ボランティア養成講座（保育） （女性情報発信） | ボランティア精神を学ぼう。新聞、雑誌などから女性に関する情報を集めて、女性交流センターからの発信を考える。 | 9～10月 |
| 女性問題講座 全5回 | 教育、就業、環境、家庭などのさまざまな問題を通して、新しい女性の視点をさぐる。 | 10～11月 |
| 女性のための起業支援セミナー 全7回 | 起業の入門から実践までのノウハウを学び、起業を取り巻く社会環境について理解を深める。 | 10～11月 |
| 男だつて子育て講座 全5回 | 男女の性別役割分業観を見直し男性の生活面での自立を促す。子育てをテーマにノウハウを学ぶ。 | 11～12月 |
| 男だつて料理講座 | 男女の性別役割分業観を見直し男性の生活面での自立を促す。料理をテーマにノウハウを学ぶ。 | 1～3月 |



表紙の子猫達は、現在自宅で飼っているアメリカン・ショートヘアの小さい頃のスケッチです。いつも絵を描く私のかたわらで、つぶらな瞳で見守っていてくれる大切な家族の一員です。そんなファミリーのあたたかさが伝わればいいという思いを込めて描いてみました。

橋爪 忠昭（神通町在住）



富山では、自己実現のため、またそれぞれの置かれた環境から、多くの働く女性がいます。あなたの家庭では、共働きの夫婦でも、家事・育児のほとんど全てを妻が負担していませんか？また、妻の側が負担するもの・しなくてはいけないものと思いませんか？家事などは、出来るだけ家族と話し合っ分担当を決め、子供にも手伝いをさせるようにしよう。そして、身の回りがある『男は仕事、女は家事育児』という伝統的な役割分業などを、見直していきたいものです。

家族の中で何かを見直す・変えるということはとても大変なことだと、私は痛感しています。しかし、摩擦や気持ちのすれ違いに負けず、女性もどんどん自分の気持ちを発言していきましよう。

富山市の女性達の応援誌として、『あいのかぜ』7号をお届けします。

編集スタッフ

布村登実子
野上 聡子
山口 雄子

「あいのかぜ」へのご意見・ご感想などお待ちしています。

〒930 8510 富山市青少年女性課（個別番号のため住所記載不要）までお送り下さい。

編集・発行 富山市役所市民部青少年女性課
〒930 8510 富山市新桜町7 38
TEL 0764 43 2051 1998年9月発行
FAX 0764 43 2176 年2回9月・2月号

とじておくと役立ちます